

令和 7 年度決算見込の概要



三木市 Miki City

目 次

- 1 一般会計の決算総括
- 2 一般会計の決算内訳
- 3 一般会計の主な取組
- 4 一般会計の市債残高と基金残高の推移
- 5 財政健全化指標
- 6 特別会計の決算
- 7 企業会計の決算

(参考 1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

(参考 2) 財政健全化の取組（令和7年度実績）

(参考 3) 財政健全化の取組（中間評価）

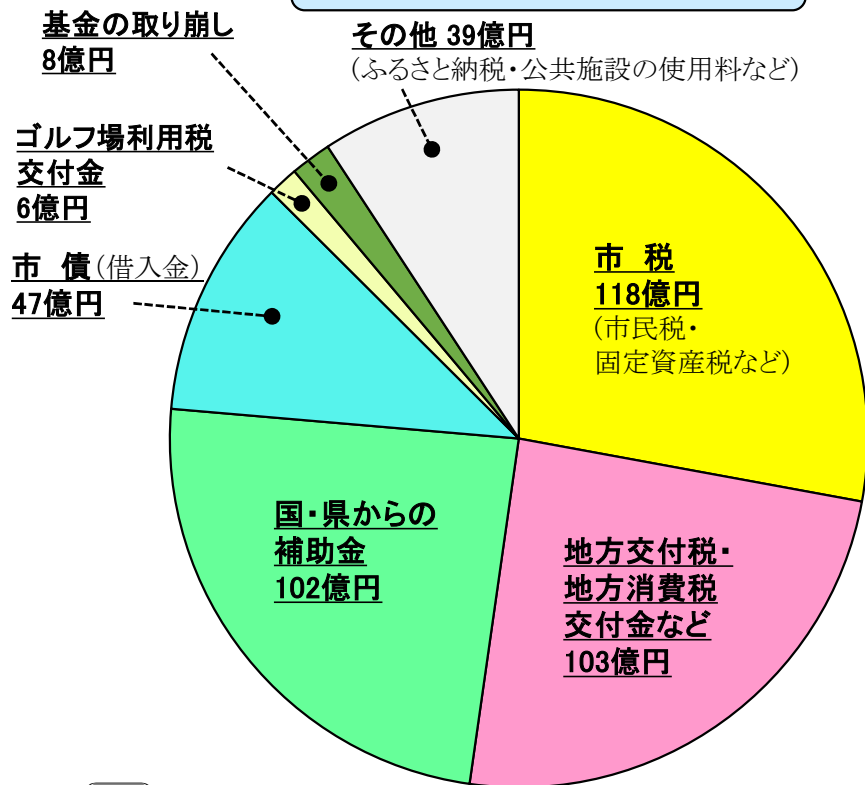
1 一般会計の決算総括

- 令和7年度の決算は、物価高騰による子育て世帯や低所得者等への給付金の支給や多世代交流施設「ヒトトキミキ」の整備など普通建設事業費の増加により、収入・支出ともに過去最大の規模となった。
- 人事院勧告に基づく給与改定や物価高騰により歳出が大きく増加し財源に不足が生じたため、令和6年度に続き財源補填のための基金4億円を取り崩した。
- 収入と支出の差引額は約3.5億円で、翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は約1.8億円の黒字となった。

区 分	令和7年度 決算見込額 A	令和6年度 決 算 額 B	増 減 額 (A－B)
収 入 額 ①	422億5,561万円	391億715万円	31億4,846万円
(うち基金繰入額)	(8.0億円)	(14.2億円)	(△6.2億円)
支 出 額 ②	419億1,008万円	382億452万円	37億556万円
収支差引額 (①－②) ③	3億4,553万円	9億263万円	△5億5,710万円
翌年度へ繰り越す財源 ④	1億6,703万円	6億452万円	△4億3,749万円
実質収支額 (③－④) ⑤	1億7,850万円	2億9,810万円	△1億1,960万円

2 一般会計の決算内訳

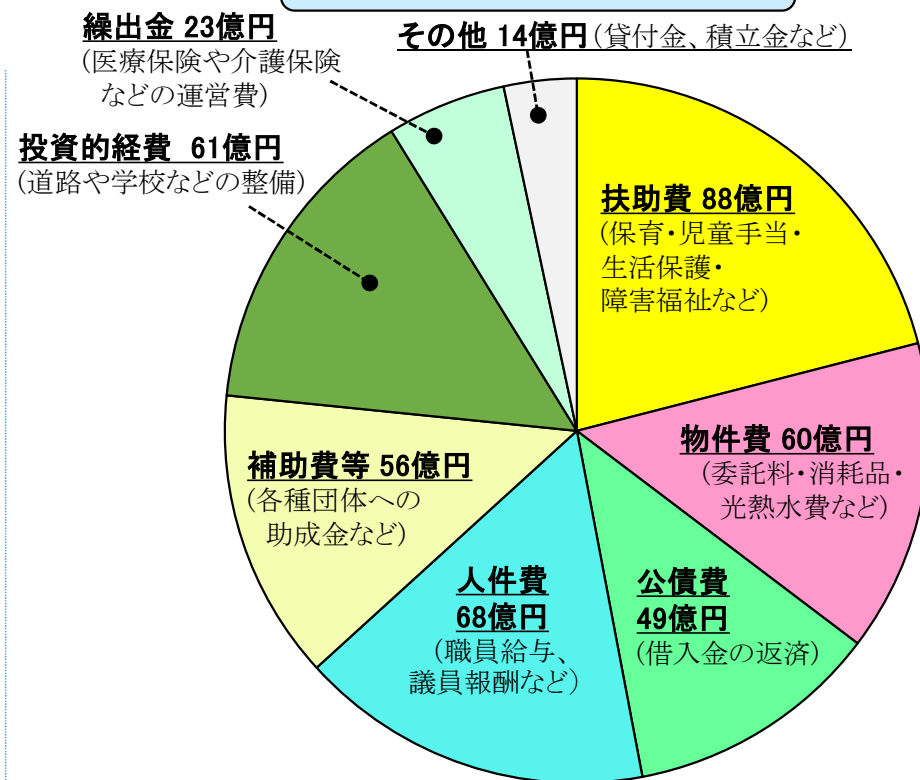
歳入（4 2 3 億円）



決算の特徴

- 市税は、定額減税の終了や法人税の伸びなどにより、前年度から5.4億円増加
- 国庫支出金は、普通建設事業の事業費の増により、前年度から11.6億円増加
- 寄付金は、ふるさと納税寄付金が企業版ふるさと納税の減少により、前年度から8.9億円減少

歳出（4 1 9 億円）

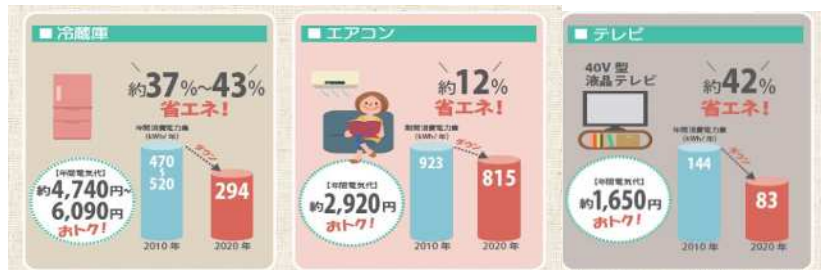


- 物件費は、児童生徒のタブレット端末更新事業や住民情報システム標準化事業などにより、前年度から5.9億円増加
- 普通建設事業費は、多世代交流施設「ヒトトキミキ」の整備やクリーンセンター大規模改修などに係る事業費の増により、前年度から30.8億円増加
- 補助費等は、北播磨総合医療センター負担金の増などにより、前年度から1.2億円増加
- 人件費は、人事院勧告などにより前年度から2.0億円増加

3 一般会計の主な取組

○ 急激な物価高騰への対応

・省エネ家電への買い替えを促進（998万円）



・プレミアム付き商品券事業を支援（4,433万円）



・高校生世代の医療費を無償化（6,180万円）

・小・中・特別支援学校の学校給食費の食材価格高騰分を支援（9,801万円）※弁当持参者への助成含む



・住民税非課税世帯に給付金を支給（1,657万円）

・定額減税補足給付金（不足額給付）を支給（2億6,328万円）

・介護サービス施設等に対し、光熱費などの価格高騰分を支援（319万円）

3 一般会計の主な取組

○教育のまちの推進、三木ブランドの魅力向上、安心して暮らせるまちづくりに関する取組

- ・団地再生事業～青山7丁目団地再耕プロジェクトの推進～（13億5,000万円）



- ・クリーンセンターの大規模改修（16億2,239万円）

- ・消防署吉川分署を移転、建替え（4億1,879万円）

- ・道の駅よかわの整備を実施（1億6,373万円）

- ・部活動の地域クラブへの展開を推進（521万円）



- ・公共施設の照明をLED化（1億981万円）※R8も継続

- ・切れ目のない妊娠から出産・子育て支援の充実（4,567万円）

- ・デマンド型交通運行エリアの拡大（2,673万円）

- ・2025大阪・関西万博における金物鷲の展示、地域資源のPRを実施（671万円）



- ・中小企業の職場環境改善および若手人材確保を支援（348万円）

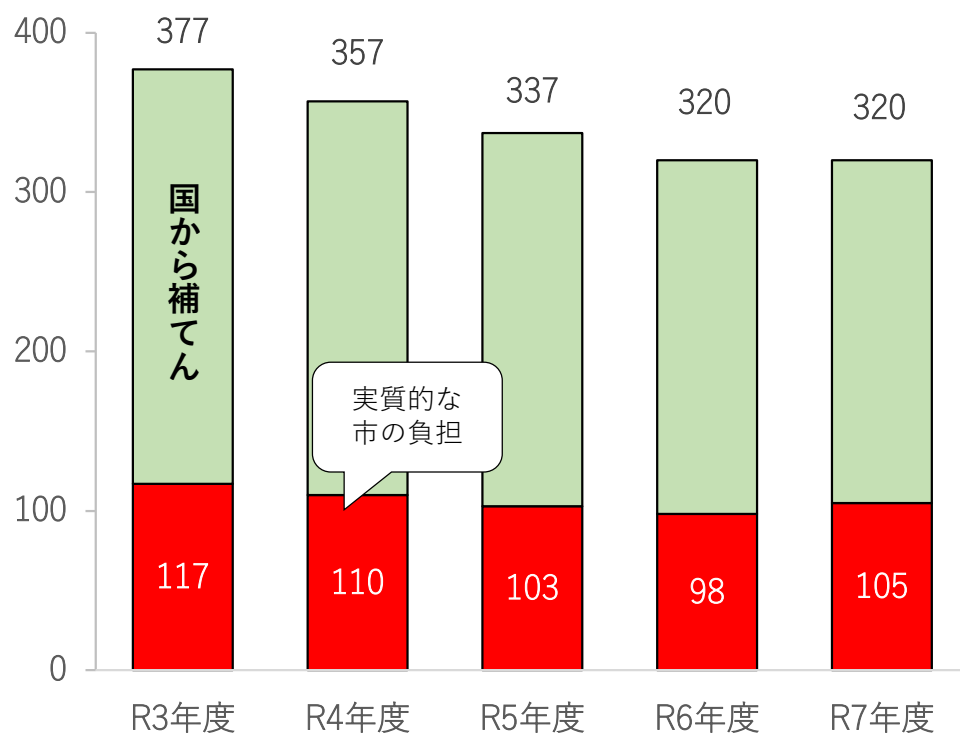
- ・地域おこし協力隊による持続可能な農村地域の形成を推進（300万円）

- ・救急安心センター事業(#7119)を開始（221万円）

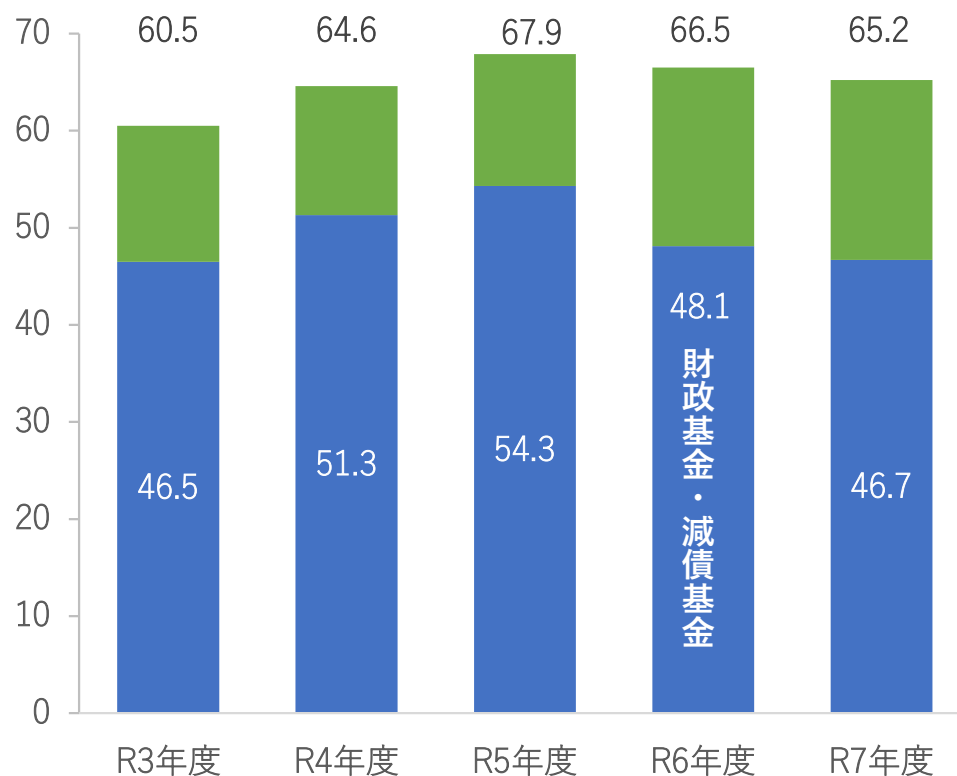
4 一般会計の市債残高と基金残高の推移

- 市債の残高は、既発債の償還額に対し、新規発行額が僅かに上回ったが、前年度と同程度の320億円となった。
- 基金の残高は、前年度決算剰余金の一部やふるさと納税寄附金など6.7億円を積み立てる一方、各種事業への活用や収支不足を補うため、財政基金や、減債基金、こころのふるさと三木応援基金などを合わせて8.0億円取り崩し、前年度と比較して1.3億円減少の65.2億円となった。

市債残高（単位：億円）



基金残高（単位：億円）



5 財政健全化指標

- 実質赤字比率・連結実質赤字比率は、黒字決算のため該当なし
- 実質公債費比率は7.3%で、前年度から0.2ポイント悪化
- 将来負担比率は23.3%で、前年度から7.7ポイント悪化
- 経常収支比率は94.6%で、前年度から1.9ポイント改善

(単位：%)

区 分	三 木 市			国の定める基準値	
	令和7年度 (A)	令和6年度 (B)	差 引 (A-B)	早期健全化 基準	財政再生 基準
実 質 赤 字 比 率	—	—	—	12.45	20.00
連 結 実 質 赤 字 比 率	—	—	—	17.45	30.00
実 質 公 債 費 比 率 (3 か 年 平 均)	7.3	7.1	+ 0.2	25.0	35.0
将 来 負 担 比 率	23.3	15.6	+ 7.7	350.0	
経 常 収 支 比 率	94.6	96.5	△ 1.9		

「—」は、黒字決算のため該当なし

6 特別会計の決算

- 特別会計は、全会計が黒字決算
- 国民健康保険特別会計は、「三木市国民健康保険財政健全化計画」に基づく取組を行った結果、1.2億円の黒字
- 介護保険特別会計は、要介護認定者数の増加に伴い、介護給付費が前年度より1.6億円増加したため、基金を0.7億円取り崩した結果、0.2億円の黒字

区 分	令和7年度決算					(参考) 令和6年度 実質収支額
	収 入 額 (A)	支 出 額 (B)	収支差引額 (C=A-B)	翌年度へ 繰り越す財源 (D)	実質収支額 (E=C-D)	
国 民 健 康 保 険	83億6,039万円	82億4,191万円	1億1,848万円	0	1億1,848万円	2億 137万円
介 護 保 険	81億5,288万円	81億3,115万円	2,173万円	0	2,173万円	2,177万円
後期高齢者医療事業	18億7,358万円	18億3,124万円	4,234万円	0	4,234万円	4,321万円
学 校 給 食 事 業	3億 611万円	3億 576万円	35万円	0	35万円	2万円

7 企業会計の決算

- 水道事業会計は、一般家庭用の給水量の減少による水道料金収入の減少と委託料などの費用の増加により、当年度純損益は前年度より0.2億円少ない1.2億円の黒字
- 下水道事業会計は、家庭用の下水道使用料収入の減少と流域下水道負担金や資産減耗費の増加により、当年度純損益は前年度より0.5億円少ない0.3億円の黒字

区 分		令和7年度			(参考) 令和6年度 収 支 額
		収 入 額 (A)	支 出 額 (B)	収 支 額 (C=A-B)	
水道事業	収益的収支	17億1,531万円	15億9,488万円	1億2,043万円	1億4,990万円
	資本的収支	2億6,634万円	5億9,886万円	△ 3億3,252万円	△ 3億3,575万円
下水道事業	収益的収支	23億4,796万円	23億1,870万円	2,926万円	8,199万円
	資本的収支	16億9,165万円	22億4,665万円	△5億5,500万円	△ 5億4,726万円

(金額は税抜き)

(参考 1) 北播磨総合医療センター企業団の決算

- 燃料費等の物価や人件費等の上昇に伴う経費の増加により、経常損益は7.6億円、純損益は7.7億円の赤字となった。
- 令和5年3月から看護師不足に伴い2病棟を閉鎖していた。看護師確保対策により令和6年3月から1病棟を再開したが、経常損益は7期連続の赤字となった。

区 分	令和 7 年度 (A)	令和 6 年度 (B)	増 減 (A-B)
病院事業収益	204.0億円	191.3億円	12.7億円
うち入院収益	119.3億円	114.4億円	4.9億円
うち外来収益	53.6億円	53.5億円	0.1億円
病院事業費用	211.8億円	200.3億円	11.5億円
うち給与費	97.2億円	89.8億円	7.4億円
うち材料費	61.5億円	60.2億円	1.3億円
経常損益	△7.6億円	△8.9億円	1.3億円
純 損 益	△7.7億円	△9.0億円	1.3億円

項 目		令和 7 年度 (A)	令和 6 年度 (B)	増 減 (A-B)
入院	患者数 (1日当たり)	334.8人	317.2人	17.6人
	平均単価	98,032円	99,353円	△1,321円
外来	患者数 (1日当たり)	1,013.9人	1,030.2人	△16.3人
	平均単価	21,898円	21,308円	590円

(参考2) 財政健全化の取組（令和7年度実績）

- 「三木市財政健全化計画」（計画対象期間：令和4年度～令和8年度）に基づき、令和7年度の取組実績効果額は総額で4億6,850万円、計画と比較して1億7,258万円下回った。

	令和7年度の取組効果額		
	実績(A)	計画(B)	差引(A-B)
収入の確保	1億2,388万円	2億5,340万円	△1億2,952万円
支出の削減	3億4,462万円	3億8,768万円	△4,306万円
計	4億6,850万円	6億4,108万円	△1億7,258万円

- 令和7年度は収入の確保及び支出の見直しを合わせて「49」の取組を実施。
（詳細は、本概要の附属書類「令和7年度 三木市財政健全化計画取組実績報告書」を参照）

	主な取組内容	取組効果額
収入の確保	ふるさと納税（寄附金）	8,229万円
	市税の徴収率の向上	4,190万円
支出の削減	一般会計から国民健康保険特別会計への赤字補填のための繰出金の廃止	1億9,449万円
	市民福祉年金の廃止	5,645万円

「取組効果額」は、財政健全化の取組前（令和3年度決算）との比較による。

(参考3) 財政健全化の取組（中間評価）

- 令和4年度～令和7年度の4か年の取組実績効果額の累計は19億5,815万円となったが、計画と比較すると1億1,210万円下回った。財政健全化計画の4か年の実績としては、概ね計画通り。

		令和4年度～ 令和6年度の 取組効果額の累計	令和7年度の 取組効果額	令和4年度～ 令和7年度の 取組効果額の累計
収 入 の 確 保	実績(A)	6億4,422万円	1億2,388万円	7億6,810万円
	計画(B)	6億9,880万円	2億5,340万円	9億5,220万円
	差引(A-B)	△ 5,458万円	△ 1億2,952万円	△ 1億8,410万円
支 出 の 見 直 し	実績(A)	8億4,544万円	3億4,462万円	11億9,005万円
	計画(B)	7億3,038万円	3億8,768万円	11億1,805万円
	差引(A-B)	1億1,506万円	△ 4,306万円	7,200万円
計	実績(A)	14億8,966万円	4億6,850万円	19億5,815万円
	計画(B)	14億2,918万円	6億4,108万円	20億7,025万円
	差引(A-B)	6,048万円	△ 1億7,258万円	△ 1億1,210万円

- 第2期財政健全化計画を令和8年度中に策定し、基金の減少を抑えながら財源を確保する。加えて、将来のまちづくりに必要となる新たな施策を推進する。

- 令和6年度に引き続き赤字補填のために財政基金及び減債基金の取崩しを行ったものの、歳入の増加が歳出の増加を上回ったことで、令和6年度と比較して取崩額は減少。
- 今後の財政収支の見通しは、国の経済財政状況を踏まえると、物価高騰や人件費の上昇などにより、歳入及び歳出ともに増加するものの、歳出の増加が歳入の増加を上回り、基金の減少が進むことが見込まれる。